

7月23日のレクティオ（読書）－SIMのA（志願者）およびTP（有期誓願者）の国際会議

友愛（FRATERNITY）

友愛はフランシスコ会の構成要素です。アッシジのフランシスコのカリスマに自分を認める人々は、その人のアイデンティティを形成する特定の生き方を自らも作ります。

友愛は、実際には、資質や属性、人が持つかどうかわからない付属品ではなく、私たちのアイデンティティの固有の要素です。私たちが兄弟姉妹であると言うことは、何よりもまず、私たちがお互いに関係していることを認識することです。信者にとって、この関係は、何よりもまず、私たち全員が依存し、この理由で父として認識している人物に基礎を置いています。父は、すべての人間の共通の生命の源として、あらゆる生命の起源としても認識されており、この理由から、フランシスコは他の生き物にも友愛の関係を帰することができます。

そこで、今日は友愛の概念から浮かび上がる次の三つの点についてお話ししたいと思います。1. 人と人との生来の関係。2. 神との生来の関係。3. 他の生き物との生来の関係。

1. 人と人との生来の関係

友愛の概念は、誰もが同じように解釈するわけではありません。フランス革命家が持っていた考えについて考えてみましょう。友愛の考え、「fraternité」は、旧体制に反対する者だけが自らを認める旗印でした。それは反対の理想、つまり旧体制の特権に対する人々の友愛でした。それは「排他的」友愛の考えであり、革命の理想に自らを認めたくない人々を排除するものでした。

フランシスコの著作や聖人伝作家が証言している彼の人生経験から浮かび上がる友愛の考えは、別の種類のものです。それは「包括的な」考え方であり、私と同じように考える人々だけでなく、私とはまったく異なる人々、たとえば山賊のように、人間的には決して興味の対象にならない人々に対しても居場所があるという考えです。

フランシスコによる友愛の概念を解釈するために、アッシジ資料のこの一節から始めましょう。

かつて、ボルゴ・サン・セポルク口の上にある兄弟たちの庵に盗賊が時々やって来て、兄弟たちにパンを乞いました。盗賊たちはその地域の深い森に隠れ、時々出て

来ては通りや小道で旅人を襲いました。その場所の兄弟たちの中には、「彼らは盗賊であり、人々に多くの悪事を働いているので、彼らに施しを与えるのは正しくありません」と言う者もありました。他の兄弟たちは、彼らが謙虚に物乞いをし、非常に必要に迫られてそうしているのを考慮して、時々彼らに施しを与え、常に悔悛するようにと忠告していました。

＊サンセポルクロ（旧称ボルゴ・サント・セポルクロ）は、11 世紀に設立された町およびコムーネで、イタリアのトスカナ州東部のアレツォ県にあります。

その間に、聖フランシスコがその場所に到着しました。兄弟たちはパンを与えるべきかどうか尋ねました。聖フランシスコは彼らに言いました。「あなたがたが私の言うとおりにすれば、あなたがたが彼らの魂を勝ち取ると、私は主に信頼しています。おいしいパンとおいしいワインを手に入れて、彼らが滞在しているとわかっている森にいる彼らのところに持って行き、叫んでください。「強盗兄弟よ、来てください。私たちは兄弟です。おいしいパンとワインを持ってきます。」彼らはすぐにあなたのところに来るでしょう。それから、地面にテーブルクロスを広げ、その上にパンとワインを置き、彼らが食べている間に、謙虚に、そして喜んで彼らの世話をします。食事が終わったら、主の言葉を彼らに話します。最後に、主の愛のために、彼らにこの最初の願いを求めてください。彼らがもう誰も殴らない、誰かの身体を傷つけないと約束させなさい。一度にすべてを求めてはいけません。そうしないと、彼らはあなたの言うことを聞きません。あなたが彼らに示す謙虚さと慈悲のゆえに、彼らはすぐにあなたにこの約束をします。翌日、起きて、彼らがあなたとした約束のゆえに、卵とチーズの他に、パンとワインを持って行き、彼らが食事している間、これを彼らのところに持って行き、世話をしなさい。食事の後、彼らにこう言いなさい。「なぜ一日中ここにいて、飢えて死にそうになっているのか。多くの悪事に苦しみ、行動の中で多くの悪事を働いている。改心しなければ魂を失うことになる。この世で肉体の必要を満たし、最後には魂を救ってくれる主に仕える方がよい。そうすれば主は慈悲深く彼らに改心するよう促し、あなたたちが彼らに示す謙虚さと慈愛によって彼らは改心するだろう。」

そこで、兄弟たちは勇気を出して、聖フランシスコが彼らに言ったことをすべて実行した。そして、彼らに降りてきた神の慈悲と恩寵によって、彼らは兄弟たちが彼らに求めたすべての要求を逐一聞き、守った。さらに、兄弟が示した慈愛に満ちた友情のおかげで、彼らは肩に薪を担いで庵に向かい始めた。神の慈悲により、兄弟が示した慈愛と友情によって、ある者は宗教に入り、他の者は悔悛を受け入れ、兄弟たちに頼って、もはやこれらの悪行を犯さず、自分の手で働いた生活を送ることを約束しました。

このことを聞いたり知ったりした兄弟や他の人々は、聖フランシスコの聖性と、彼が不誠実で邪悪だったこれらの人々の改心を予言し、彼らがいかに早く主に改心したかを思い起こして、非常に驚きました。（FA：ED、第1巻、p.221-222）

この一節から浮かび上がるのは、遠くに人々に近づくフランシスコの教えの一種です。善きサマリア人のたとえ話によれば、イエスは「隣人」とは私に最も近い人ではなく、私が近づく人であると私たちに思い出させます。同様に、兄弟姉妹とは、すでに自然に私に近い人や、私が何らかの形で私の心の近くにいと見なすことができる人、つまり親しい友人、信仰の兄弟姉妹ではないと言えます。兄弟姉妹とは、私が兄弟愛の関係を築くために近づくことを決意したすべての人です。「兄弟泥棒」でさえもです。

このようにして、フランシスコ会の兄弟愛の意味をよりよく理解することができます。それは一緒に良いことをすることではなく、必ずしも一緒に暮らすことでもありません。フランシスコ会の修道士と修道女が共同生活を送っているのは事実ですが、フランシスコの直観、つまり生き方としての友愛は、この観点に立ち、相手に何も要求せず、むしろ奉仕の関係で互いに身を捧げる限り、誰でも共有できます。実際、フランシスコは自分をすべての人の兄弟とみなしているだけでなく、自分自身を「小さき者」、つまりより劣った兄弟とみなされることを望んでいると付け加えておく必要があります。したがって、友愛のもう1つの重要な要素、つまりそれに伴う要素は「小さき者」です。フランシスコが兄弟のために書いたこの訓戒で、これは明らかにわかりますが、これはすべてのフランシスコ会士に当てはまります。人々から賞賛され称賛されることよりも、価値がなく、単純で、見下されていると見なされることの方が優れていると考えないしもべは幸いです。神の前には、人間はそれ以上のものではないからです。他人によって高い地位に就き、自分の意志でその地位に就くことを望まない修道士は悲惨である。自分の意志で高い地位に就かず、常に他人の足元にいたいと願う奉仕者は幸いです。（FA: ED、第1巻、135ページ）

私たちの価値は、役割や学位、富や名誉ある地位ではなく、神が私たちを見ることによって与えられます。常に奉仕の精神、少数派の論理の中に身を置く方法を知ることが必要です。また、この友愛の論理に入るためには、自分自身と他者を平和に見つめることも必要です。生きた友愛は、他の人が私が望むようになることを決して要求しないことを求めます。ある牧師への手紙からこの一節を読んでみましょう。その中でフランシスコは、他の修道士に耳を傾けられず従われないために困難に直面している管区の牧師、つまり修道区の長に貴重な指針を与えています。

管区長であるN兄弟へ：主があなたを祝福してくださいように。

私はあなたの魂の状態についてできる限りあなたに話します。あなたは、主なる神を愛することを妨げるすべてのもの、そして兄弟であろうと他の人であろうと、たとえ彼らがあなたに手を出すとしても、あなたの邪魔になる人を恵みとみなさなければなりません。どうか、あなたはそうであってほしい。そうであってほしい。そして、これがあなたにとって主なる神への真の服従であり、私の真の服従であるように。なぜなら、私はそれが真の服従であることを確信しているか

らだ。そして、あなたにそのようなことをする人々を愛し、主なる神があなたに与えたものでない限り、彼らに何か違うことを望まないように。そして、そのように彼らを愛し、彼らがより良いクリスチャンになることを望まないように。そして、これがあなたにとって隠遁以上のものであるように。

そして、もしあなたがこれをしたのなら、私はこのようにして、あなたが主と私、主のしもべでありあなたのしもべを愛しているかどうかを知りたい。罪を犯した兄弟で、たとえどれほど罪を犯したとしても、あなたの目を見た後、もし彼が慈悲を期待しているのなら、あなたの慈悲なしに去る者はいない。そして、もし彼が慈悲を期待していないのなら、あなたは彼に慈悲を望むかどうか尋ねるだろう。そして、もし彼があなたの目の前で千回罪を犯すなら、あなたは彼を主に引き寄せるために、私よりも彼を愛してほしい。そして、このような兄弟たちには常に慈悲深くあるべきです(FA: ED、第1巻、97-97ページ)。

王であるキリストの宣教師の兄弟共同体においても、兄弟愛と少数派の態度を心がけることが重要です。兄弟愛と少数派の態度では、お互いが相手にもっと優れていることを期待したり、相手が私たちの望むような存在であることを期待したりすることなく、相手を歓迎します。兄弟共同体には、自分とはまったく異なる人々がいます。おそらく、この人生の選択を共有したくない人々もいるでしょう。しかし、宣教師であることは、まず第一に、兄弟愛の中でフランシスコのカリスマを生きることが意味します。それは一緒に暮らすことではなく、すべてについて同じ意見や同じ考えを持つことでもありません。逆に、兄弟愛は多様な人々で構成されるほど豊かになります。

兄弟愛は、いかなる個性の同質化や抑圧でもありません。むしろ、自分とは異なる他者が私のアイデンティティの根本であることを認識することです。兄弟姉妹がいなければ、私は兄弟姉妹になることもできません。兄弟姉妹という概念は、必然的に相手の存在を意味する関係概念です。相手を自分にとって大切な存在として受け入れるか、相手の多様性に耐えられない誰かという緊張感の中で常に生きるかのどちらかです。

私たちの特徴であるこの多様性はどこから来るのでしょうか。生物学では、種の進化から来ると言います。種の内部が多様であればあるほど、非常に異なる環境でも生き残るチャンスが増えるからです。神学では、この多様性は、卓越した存在、カリスマの多様性と恵みの多様性の創始者である聖霊から来ると教えています。友愛を神学的に見ると、私たちはさらに一歩進んで、友愛の根底には神がいることを認識する必要があります。

2. 神との本質的な関係

私たちが互いに兄弟姉妹であると言い、実際にそうであると認めるのは、私たちが共通の父を共有しているからです。実際、兄弟姉妹はすべて同じ起源から生まれています。フランシスコの改宗のまさに始まりは、神が父であり、私たち全員が頼りにする唯一の真の父であるという洞察でした。フランシスコのいわゆる「略奪」のエピソードをもう一度読みましょう。なぜなら、まさにそこに、彼が神の息子であり、普遍的な兄弟であるという認識の根源があるからです。今日の午後、聖フランシスコ大聖堂のジョットのフレスコ画を見ると、この一節を心に留めておきましょう。

ピエトロ[フランシスコの父]は、コミューンの宮殿に急いで行き、市の行政官に息子について苦情を申し立て、家から持ち出したお金を返してもらうよう頼みました。行政官たちはフランシスが取り乱しているのを見て、使者を遣わしてフランシスを召喚した。フランシスは使者に、自分は神の恩寵によって自由になったこと、全能の神にのみ仕える者なので、もはや行政官たちに縛られることはないと言った。行政官たちはこの件を強引に解決しようとはせず、フランシスの父親にこう言った。「彼は神に仕えているので、もはや我々の力には負えない」。

行政官たちを相手に何も成し遂げられないと悟ったフランシスは、市の司教にも同じ苦情を申し立てた。洞察力と理解力のある司教は、父親の苦情に応えるためにフランシスを召喚した。[...]

すると、神の男は司教の言葉に喜びと慰めを感じて立ち上がり、金を持ってきてこう言った。「主よ、彼の所有物から得た金だけでなく、私の衣服もすべて喜んでお返しします。そして司教の部屋の一つに入り、彼は衣服をすべて脱ぎ、その上にお金を乗せて、司教と父親、そしてその場にいたすべての人々の前に裸で出て、こう言った。「皆さん、よく聞いてください。私は今までピエトロ・ディ・ベルナルドーニを父と呼んでいました。しかし、神に仕えることを申し出たので、彼があれほど怒っていたお金と彼の衣服をすべて返しました。これからは「天におられる私たちの父」と呼び、「私の父ピエトロ・ディ・ベルナルドーニ」とは呼びたくないのです。」その時、神の人は色とりどりの衣服の下に、肌に直接毛糸のシャツを着ているのが見つかりました。それから、耐え難い痛みと怒りに打ちひしがれた父親は、お金と衣服をすべて奪いました。彼がそれらを家に運んでいる間、この光景を見ていた人々は彼に憤慨しました。なぜなら、彼は息子に着るものを何も残さなかったからです。彼らは同情の念に駆られ、彼のために泣き始めました。(FA: ED 第2巻、p.79-80)

神との根本的な関係は、フランシスコが個人のアイデンティティを築くための岩石となります。ここでも、私たちは付随的な要素ではなく、構造的な何かを扱って

います。この関係がなければ、私たち人間は根無し草となり、根無し草の木は短命です。

あなたは、神を信じていないと言う人や、神が存在することを単に望んでいるが、この希望する神に名前やイメージを与えるという問題を十分に提起したことがない人をたくさん知っているに違いありません。フランシスコは、例と言葉によって、神がそこにいるだけでなく、神が私たちの生活の根本であることを私たちに思い出させます。私たちは神なしでは生きられません。なぜなら、私たち自身の人格は神に由来しているからです。

フランシスコは人生の絶頂期に、ラ・ベルナ山で神との最も深い交わりを経験しました。神は聖痕の中で彼の肉体にもなりました。その山でフランシスコはキリスト教の伝統の中で最も美しい祈りの一つである「至高の神への賛美」を作曲しました。それは、他者、つまり神の中に、頼るべき「あなた」を認める愛から湧き出る賛美です。あなたなしでは私たちは何もできません。彼の言葉は次のとおりです。

あなたは聖なる主なる神であり、素晴らしいことをなさる方です。

あなたは強いです。あなたは偉大です。あなたは最も高貴です。

あなたは全能の王です。あなたは聖なる父であり、
天と地の王です。

あなたは3つで1つであり、神々の主なる神です。

あなたは善であり、すべての善であり、最高の善であり、

生ける真実の主なる神です。

あなたは愛であり、慈悲であり、
あなたは知恵です。あなたは謙虚です。

あなたは忍耐です。あなたは美しさです。あなたは柔和であり、
あなたは安心であり、安らぎです。

あなたは喜びと楽しみです。あなたは私たちの希望であり、正義であり、
あなたは節度であり、あなたは私たちの充足へのすべての富です。

あなたは美しさであり、あなたは柔和であり、
あなたは守護者です。あなたは私たちの管理人であり、擁護者です。あなたは力
です。あなたは元気です。あなたは私たちの希望です。

あなたは私たちの信仰です。あなたは私たちの慈愛です。
あなたは私たちの優しさです。あなたは私たちの永遠の命です。
偉大で素晴らしい主、全能の神、慈悲深い救世主。
(FA : ED、第1巻、p.109)

さて、神がすべての人間の存在の根本であるならば、神が私たちの周りのすべてのものの起源でもあり得ないことが理解できるでしょう。

3. 他の生き物との本質的な関係

これを語っているのは、黙示録、つまり聖書だけではありません。私が生まれた神との関係なしには、私の人格は無意味であると理解するとき、この起源は、私に関係を持つすべてのものからも生じていると感じます。なぜなら、私たち人間は、私たちが住む世界がなければ生きられないからです。したがって、神が私の人生の根本であるならば、神は私に命を与えるすべてのものの根本でもあるでしょう。したがって、他の人間と生きる友愛は、祝福の抱擁で宇宙全体を歓迎する視線にまで広がります。

フランシスコは、私たちを養い、命を与え、私たちを支え、養うすべての要素の賜物に対する神への賛美として、生き物の賛歌を歌うことができます。

最も高く、全能で、善良な主よ

賛美、栄光、名誉、そしてすべての祝福はあなたのものです

最も高く、それらはあなただけに属します

そして、あなたの名前を言うに値しない人間はいません。

主よ、あなたのすべての創造物とともに、

特に兄弟である太陽卿を讃えます

彼は昼であり、あなたを通して私たちに光を与えます

そして彼は美しく、素晴らしい輝きを放ち、

あなたの似姿を持っています、至高なる方

主よ、姉妹である月と星を通して、あなたを讃えます

あなたは天でそれらを澄みきって貴重で美しく形作りしました

主よ、兄弟である風を通して、そして空気、曇り空、

そしてあらゆる種類の天候を通して、あなたを讃えます

あなたはそれを通してあなたの創造物に栄養を与えます。

主よ、姉妹である水を通して、あなたを讃えます

とても有用で謙虚で貴重で追い求めます

主よ、兄弟である火を通して、あなたを讃えます
彼を通してあなたは今夜を照らします
そして彼は美しく遊び心があり、頑丈で強いです

主よ、姉妹である母なる大地を通して、あなたを讃えます
私たちを支え、統治し、
色とりどりの花やハーブでさまざまな果物を生み出します。

主よ、あなたの愛を赦し、弱さと苦難に耐える人々を通して、あなたは讃えられます

平和に耐える人々は祝福されます
なぜなら、あなた、いと高き者によって、
彼らは戴冠されるからです。

主よ、私たちの姉妹である肉体の死を通して、あなたは讃えられます
なぜなら、生きている者は誰もそこから逃れることができないからです
大罪を犯して死ぬ人々は悲惨です。
あなたの最も神聖な意志によって死が見つかる人々は祝福されます
なぜなら、第二の死は彼らに害を与えないからです。

主を讃え、祝福し、感謝し、
大いに謙虚に主に仕えましょう
(FA：ED、第1巻、p.113-114)。

この祝福されたまなざしは、現在の地球規模の環境危機で私たちが経験している状況が劇的であるのと同じくらい、今日の私たちにとってより重要です。フランシスコ会士として私たちが生きる友愛は、私たちと同じように同じ起源に依存している他のすべての生き物も考慮に入れずにはられません。フランシスコ会士として、私たちは他の生き物に対しても友愛の態度をとるよう求められています。それは、フランシスコが「美德への挨拶」の祈りの結びで、キリスト教徒は私たちより劣る生き物から来るものでさえも従順に受け入れる用意があるようにと求めたときにフランシスコを動かした精神に従ってです。

聖なる服従は、あらゆる悪魔的で肉欲的な願望を混乱させ、
その死すべき体を、聖霊への服従と兄弟への服従に結びつけ、
人間だけでなく、あらゆる獣や野生動物にも従順で服従するようになり、

主によって上から与えられた限り、
彼らは何でも好きなように扱うことができるようになります。
(FA：ED、第1巻、p.163)

私が「私たちより劣った生き物」と言ったのは、これが中世の人々の考え方であり、基本的に私たちの考え方でもあるからです。私たち人間は、自分たちが動物や植物よりも優れていると考えています。フランシスコが私たちに求めた改宗は、自分たちが他の生き物にさえ従順で、すべてよりも「劣っている」と考えることです。このようにして、優れた生き物も劣った生き物もなくなり、私たちはすべて、真に唯一の神の兄弟姉妹なのです。もちろん、私たち人間は他の生き物の世話を任されています。私たちは創造における神の奉仕者ですが、これは私たち自身の恣意性を認めるというよりも、私たちの責任を訴えるものです。

分析した3つのポイント（人と人との間の構成的関係、神との構成的関係、他の生き物との構成的関係）をもう一度見直し、今日それらについて瞑想しながら、フランシスコの洞察に従って私たちの心を改心させ、世界に普遍的な兄弟愛の福音を伝えるために私たちがとることができる具体的なステップについて考えましょう。

兄弟エルネスト